

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「まごころ、ふれあい、助け合い」の理念を掲げ、玄関に掲示し新人教育の際に周知徹底している。また、毎日朝夕申送り時に職員一同唱和している。	「まごころ、ふれあい、助け合い」の理念を掲げ、玄関に掲示されています。毎日朝夕の申し送り時に職員一同で唱和され、周知徹底されています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアとの交流機会を、毎月の誕生日会の際に持っている。また介護予防教室等をおこない、地域の方々をお招きし、入居者と交流していただいている。	毎月の誕生日会や遠足、盆踊りなど、ボランティアの方がたくさん来られる機会があり、地域の方との交流を大切にされています。又、地域の行事にも参加されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の門前に無料介護相談承る旨を掲示し、介護相談があれば所内相談や訪問相談、電話相談に応じている。また施設見学を随時受け入れている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域包括支援センター、地域ボランティア、市議員、スタッフで会議を構成し2か月ごとに実施し、家族会を併設し家族参加を促している。	2カ月に一回開催されています。ホームの現状報告や外部評価の結果など報告し、参加者からの意見も取り込んでサービスの向上に生かしています。又、家族会を併設されており、家族参加を促されています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	質問・報告などその都度電話等で行っている。	地域包括の方や、市議員の方が推進会議にも出席する事で施設の実績を理解してもらっています。又、相談などその都度電話等で行い、協力関係を築かれています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいます	身体拘束をしないケアの実践を要綱に基づきスタッフ間で徹底し見守りに主眼を置き実行している。	現在、身体拘束はしていません。玄関も、施錠せず、自由に行き来出来るようになっていました。	身体拘束のマニュアルなどを作成し、研修を行うことでさらなる周知徹底出来るように期待します。
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の取り組みを要綱に基づきスタッフ間で徹底している。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護を活用するよう心がけており、現に制度利用者が二名おられ、スタッフ間で知識の共有化を図っている。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約に基づき本人及び家族に説明を行っており、各2部作成し双方が保有している。</p>		
10	6 <p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に外部相談機関及びその連絡先を列記し、説明している。また意見箱を玄関に設置している。意見交換は随時おこなっている。</p>	<p>面会時に家族から意見や要望が出され、何でも話せる関係作りをされています。又、家族会も運営推進会議と併設されており、意見交換をし、運営に反映されています。</p>	
11	7 <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リダ-会議や各ユニット会議、ケース会議を頻回に開催し全スタッフが会議に参加する体制を作っている。</p>	<p>日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。又、毎月リダ-会議や各ユニット会議、ケース会議を頻回に開催され、スタッフから意見を聞ける機会を設けられています。</p>	
12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リダ-会議を開催している。年単位で昇格・昇給の機会を設けている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一同にリーダーの役割機会を設けている。また資格取得支援体制を設けている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の地域密着型サービス協議会に参加し、スタッフに順番で研修参加の機会を設けている。</p>		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>施設見学を必ずお勧めし、介護相談を行い軽度の場合は他サービスを、重度の場合は病院受診をご紹介することもある。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>対等の立場で話し合いを持つことを常態としている。過剰にお客様な扱いをしていない。</p>		
19	<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>事あるごとにご家族と密に連絡を取るよう心がけている。また、本人様と過ごす時間を多く持つだけでなく促している。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている</p>	<p>地域に開かれたホームをコンセプトに知人やご家族の訪問や外出支援に力を注いでいる。また日中は玄関開錠し開門している。</p>	<p>知人の方が来園されたり、手紙や、はがきを出されています。又、家族の迎えにて知人に会いに行かれるなど、馴染みの人との関係をもたれています。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲のよし悪しを考慮したテーブルの着席位置や、ソファの着席位置など環境整備に努めている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご退去後も電話相談等に応じるよう努めている。またご退去後に入院された方を見舞うことも多い。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の望む暮らしぶりにはできるだけ沿うよう努めている。</p>	<p>入所時のアセスメントで本人や家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご入居に際して、できる限り居宅訪問を行い、家具の配置等に配慮し以前の環境に近い環境整備に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々のケアに際し、担当制を実施し、各個人の状態把握を細やかに行っている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>スタッフからの密な状況報告を元に、ご本人、ご家族のご希望に沿うケアプラン作成を心がけている。ケース会議やユニット会議はスタッフ全員参加を促し、出た意見等をケアプラン作成に反映させている。</p>	<p>6ヵ月ごとに見直しをされていますが、何か変化があればその都度行っています。家族が面会に来られたときに意見を求め、現状に即した介護計画を作成されています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録は日勤帯、夜勤帯を色分け別記し、きめ細かい内容記録に努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>認知症ケアは個人差が大きいことを勘案し画一的でないケアを心がけている。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣に豊富に存在する公園を散歩に活用し季節感を味わっていただくよう心がけている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は近隣開業医に協力医療機関を依頼し、近隣病院に月2回訪問診療を依頼し行っている。毎週訪問歯科診療を行っている。</p>	<p>基本かかりつけ医は、協力医になっていますが、利用者・家族の希望のかかりつけ医の往診もでき、適切な医療機関と連携されています。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員や訪問看護師とは密に連携をとっており、必要に応じた処置を速やかに受けていただけるよう努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時の文書による情報提供への協力に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護の要綱に基づき、ご入居時より見取りが可能な施設である旨を説明し、必要に際しては主治医からの説明を実施していただいている。</p>	<p>看取り介護も実施されており、入居時に話し合いをされています。主治医や看護師とも連携を密にされており、職員で情報を共有され安心した支援が行われています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ヒヤリハット、事故報告書の報告及び記録の提出の徹底を図っている。また日頃から報告連絡相談体制を一貫し急変時の迅速対応を心がけている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>スタッフ、利用者、家族の参加のもと、消防訓練を6か月ごとに行っている。</p>	<p>消防署の立会いのもと6か月ごとに避難訓練が行われています。消火器の使用方法や参加できない職員への伝達もされています。</p>	<p>今後、災害時のマニュアルの作成や、地域の方の参加を考慮しておられ、検討を期待します。</p>

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への言葉かけについては、スタッフマニュアルで謳っており、スタッフ間で注意し合う環境づくりに努めている。	新人研修やマニュアルで話し合いをされ、情報を共有し、プライバシーを損ねない自己決定のしやすい言葉かけをされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩等の外出に際しては服装の相談に応じたり、女性は化粧、男性は髭剃りを援助し、定期的に理美容を受けていただく等、その人らしい身だしなみに配慮している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に楽しく参加していただき、個人の力量に応じてテーブルを拭いたり、食器の片づけを行っていただく。また、カレーライスの盛り付けやチラシ寿司作りなど簡単な調理に参加されている。	食事は外注ですが、主食は炊飯器で炊かれています。食器は個人の物を使用されています。出来ることは職員と一緒に手伝わられています。	今後、おやつ作りの回数を増やしたり、食事を一品作ったり、一緒に何かする機会を増やしてみようかどうか。今後に期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	各個人記録には摂取水分量、回数、食事量を記録し食事の好みや嗜好に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを各個人の口腔の状態に応じて実施している。また毎週訪問歯科診療を行っている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>夜間と日中のおむつやパッド、リハビリパンツの使い分けを実施、トイレ介助を優先する等、機能保持に努めている。</p>	<p>排泄表を基に排泄パターンを把握され、トイレでの排泄を大切に考えられています。車椅子でも使用できる広いトイレがあり、自立に向けた支援がされています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄記録に各個人の排便記録を詳細に書き込み、腹部マッサージや適正な水分補給と水分量の管理等、便秘の管理を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴実施、入浴予定カレンダー化し6～10月は週3回、11～5月は週2回入浴していただく。シャワー浴の方には足浴を行っている。</p>	<p>入浴は季節に応じて2回から3回行われています。入浴時間は決まっていますが、中でも入居者に合わせています。足浴の際は入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめる支援がされています。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>季節を通じた室温湿度管理に注意し、ベッドの環境整備、体位変換、良肢位保持等行っている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人記録にはお薬説明書を添付しスタッフ間で共有化している。介護記録に服薬者印を残すことと、服薬時の対象者名と日付の首読等を実施し、投薬ミスのないよう努めている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>貼り絵や塗り絵、習字、折り紙、散歩、日光浴、ラジオ体操など個人の能力、生活歴、性格に応じた対応に努めている。</p>		

49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩を常態化しているほか、外出・外泊は積極的にご家族が行えるよう環境整備している。</p>	<p>日常的に敷地内で日光浴されたり、散歩に行かれたり、買い物に行かれた時は、帰りに喫茶店に行かれたりされています。また、お花見や、遠足、地域の行事などに参加されるなどの、外出支援がされ</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>当ホームは生活保護率が5割強であり、所持金を持てない方もあり、不公平でもあり、また、物盗られ妄想を喚起する可能性や、紛失によるトラブルのもとになるので、基本的に所持金はお断りしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の支援は行っている。ご希望により電話の支援を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、レクリエーションで制作した季節の貼り絵で季節感を演出したり、毎日の清掃管理に努めるなど環境整備には配慮している。</p>	<p>共用空間にはソファ、テーブルがあり、窓も大きく外からの光が入り、居心地の良い空間になっています。また、入居者の方が作った作品が飾られたり、季節感が感じられる空間になっていま</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル、ソファの配置や着席位置を工夫するなど環境づくりに配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、親しみある家具の持ち込みやTVを置くなど希望に沿うレイアウトを実施している。</p>	<p>以前の部屋へ近づけるよう家族・入居者と話し合わせ、家具の配置を決められています。また、居室への持ち込みの制限はなく、以前から使用している馴染みの物を使用され、居心地良く過ごせる空間</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段室を施錠し、エレベーターは自由に使用していただく等安全配慮しながら、能力に応じた自由度を確保している。</p>		

アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています		ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない